

# 志摩市人口ビジョンにおける 「人口の将来展望」の見直しについて

## 目次

- |                   |     |
|-------------------|-----|
| 1. はじめに           | …1  |
| 2. 志摩市の人口等の状況     | …2  |
| 3. 将来人口の推計        | …16 |
| 4. 見直し後の「人口の将来展望」 | …20 |

令和8年3月

志摩市 政策推進部 総合政策課

# 1. はじめに

## 見直しの趣旨

平成28(2016)年3月に策定した「志摩市人口ビジョン(以下「人口ビジョン」という。)」では、2060年に30,000人程度の人口を確保する将来展望を掲げ、人口減少対策に取り組んできました。

その後、策定から6年が経過する中で、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の地域別将来推計人口(平成30年3月)や令和2(2020)年国勢調査の結果が公表されました。令和2年国勢調査の結果では、総人口が46,057人となり、人口ビジョンが描く将来展望人口の推計との間で約2,000人の乖離が生じ、急激な人口減少の傾向に歯止めがかかっていない状況であることがわかりました。そこで、令和4年12月には、人口動態等の現状を把握し、条件別のシミュレーションを実施して、人口ビジョンの「人口の将来展望」の見直しを行いました。

前回の見直しから3年が経過し、令和8年度から新たな総合計画の計画期間を迎えることを受け、この度、近年の本市の人口減少の状況等を踏まえ、対象期間を2070年まで延長し、「人口の将来展望」の見直しを行いました。

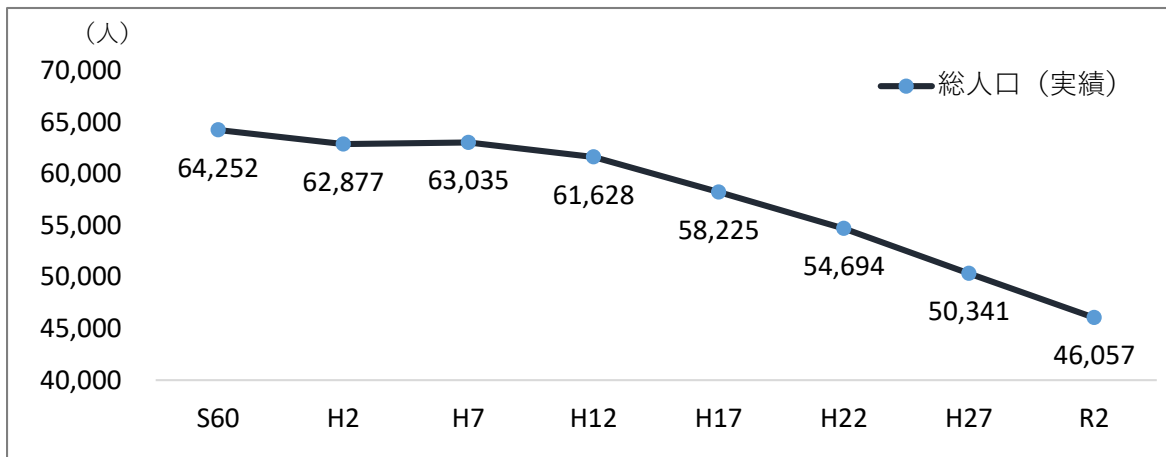
## 2. 志摩市の人口等の状況

令和2(2020)年国勢調査の結果や直近の人口動態統計などの結果により、本市の人口等(総人口や年齢構成、自然増減、社会増減等)の状況を確認します。

### (1) 総人口の推移

本市の人口は、昭和30(1955)年にピークを迎え、その後、若干の増減を経ながら、平成12(2000)年以降、減少が続いています。

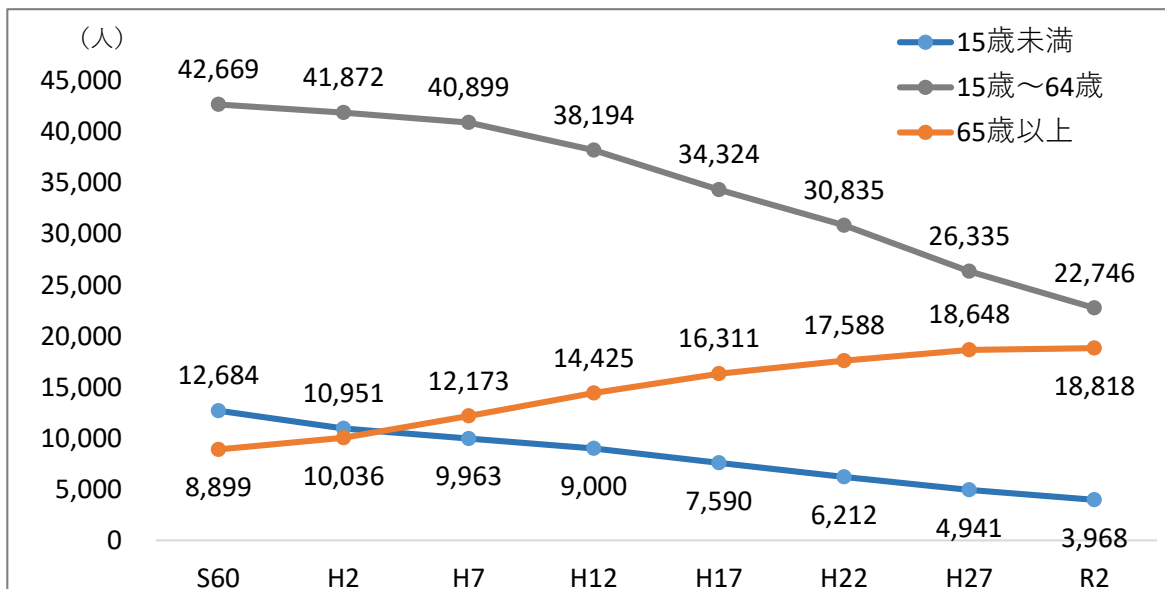
令和2(2020)年国勢調査では46,057人となり、平成27(2015)年調査からの5年間で約4,300人の人口が減少しています。



出典:「国勢調査」※H16の合併以前については、旧5町の合計数値

### (2) 年齢3区分別人口の推移

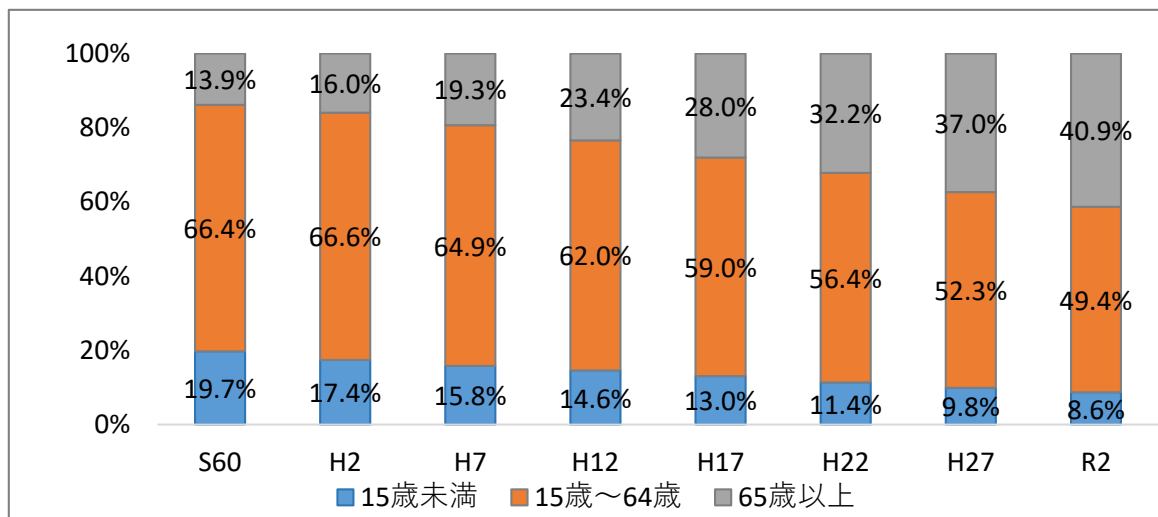
令和2(2020)年調査では、平成27(2015)年時点と比べ、15歳未満の年少人口は約20%減少し、15歳～64歳の生産年齢人口は約14%減少しています。一方、65歳以上人口は微増となっています。



出典:「国勢調査」

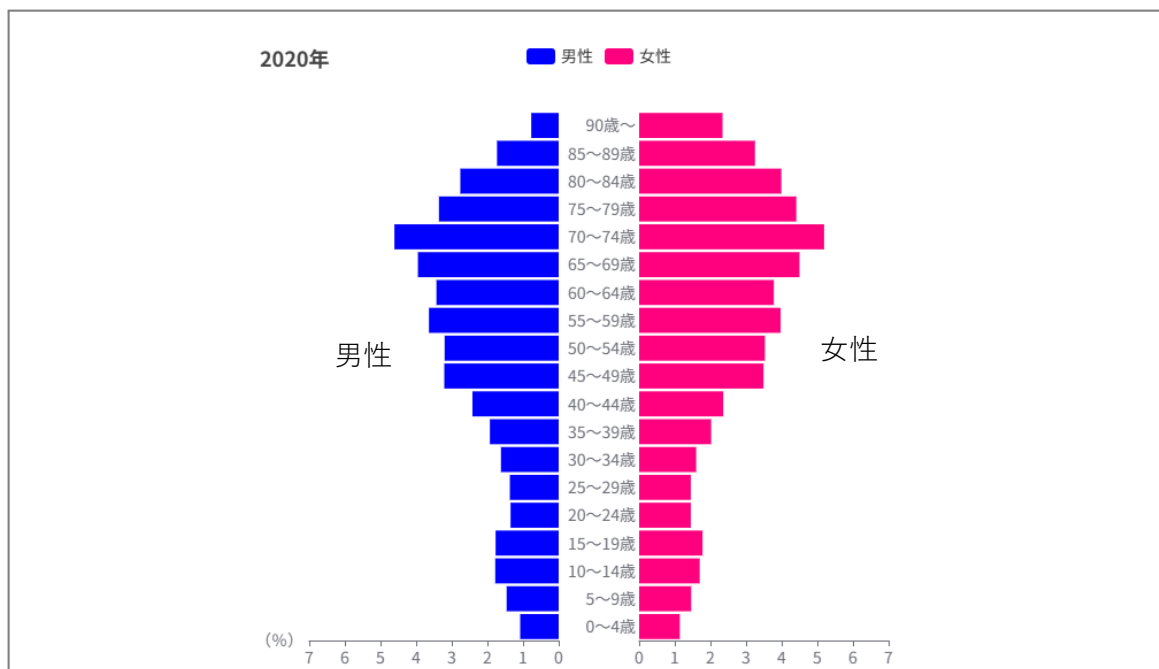
### (3)年齢3区分別人口割合の推移

少子高齢化が進行し、令和2(2020)年には、65歳以上高齢化率は40%を超える状態となっています。



出典:「国勢調査」

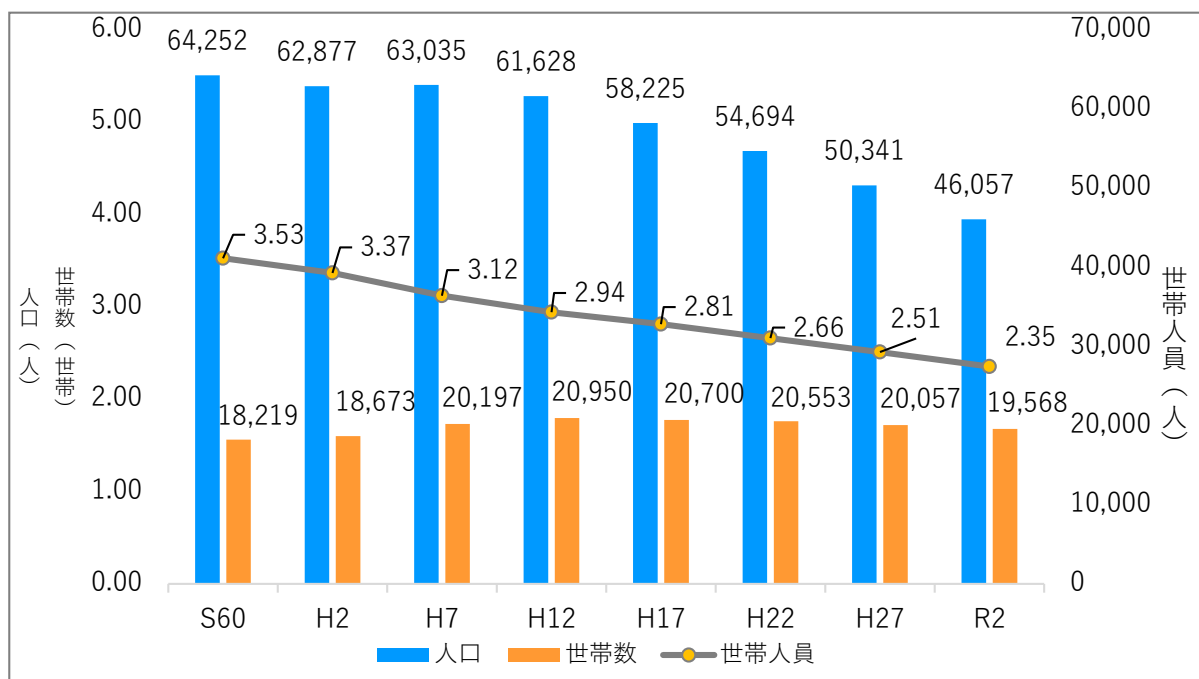
#### 【参考】 令和2(2020)年の人口構造



出典:「RESAS(地域経済分析システム)」国勢調査

#### (4)総人口と世帯数・世帯人員の推移

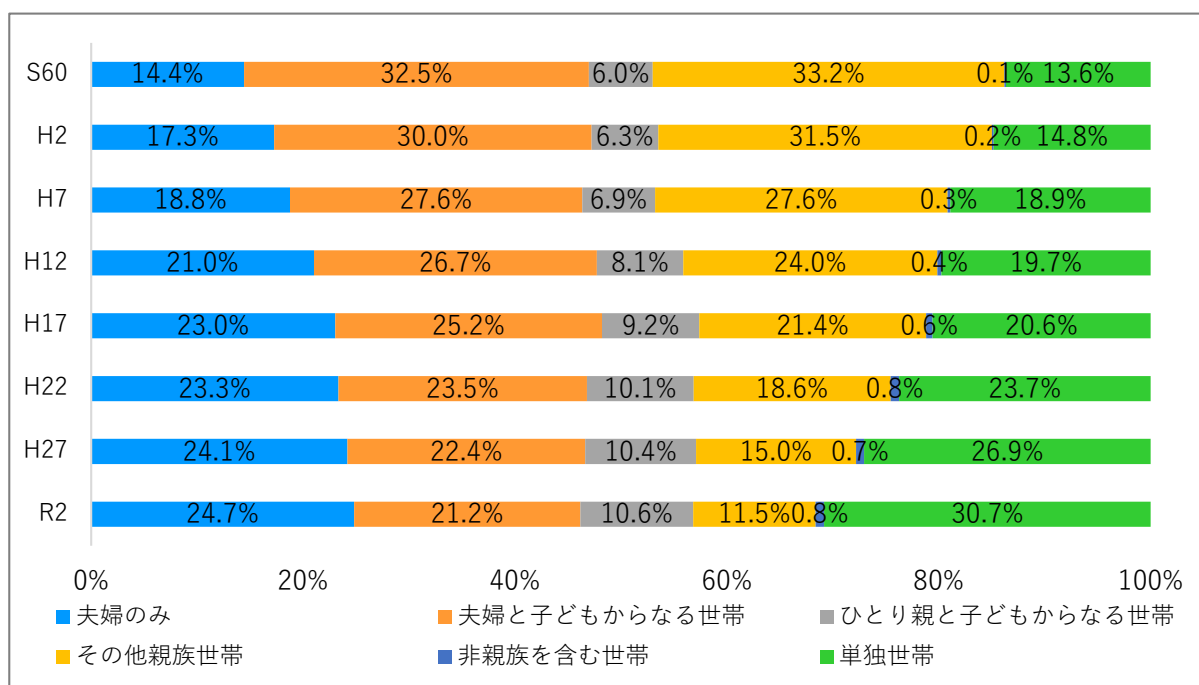
世帯数は、平成12(2000)年以降、徐々に減少しています。また、世帯人員も年々減少しており、過去30年で1人以上減少する結果となっています。



出典:「国勢調査」

#### (5)家族類型世帯数の割合の推移

「夫婦と子どもからなる世帯」と「その他親族世帯」が減少し、「夫婦のみの世帯」と「単独世帯」の割合が増加傾向にあります。

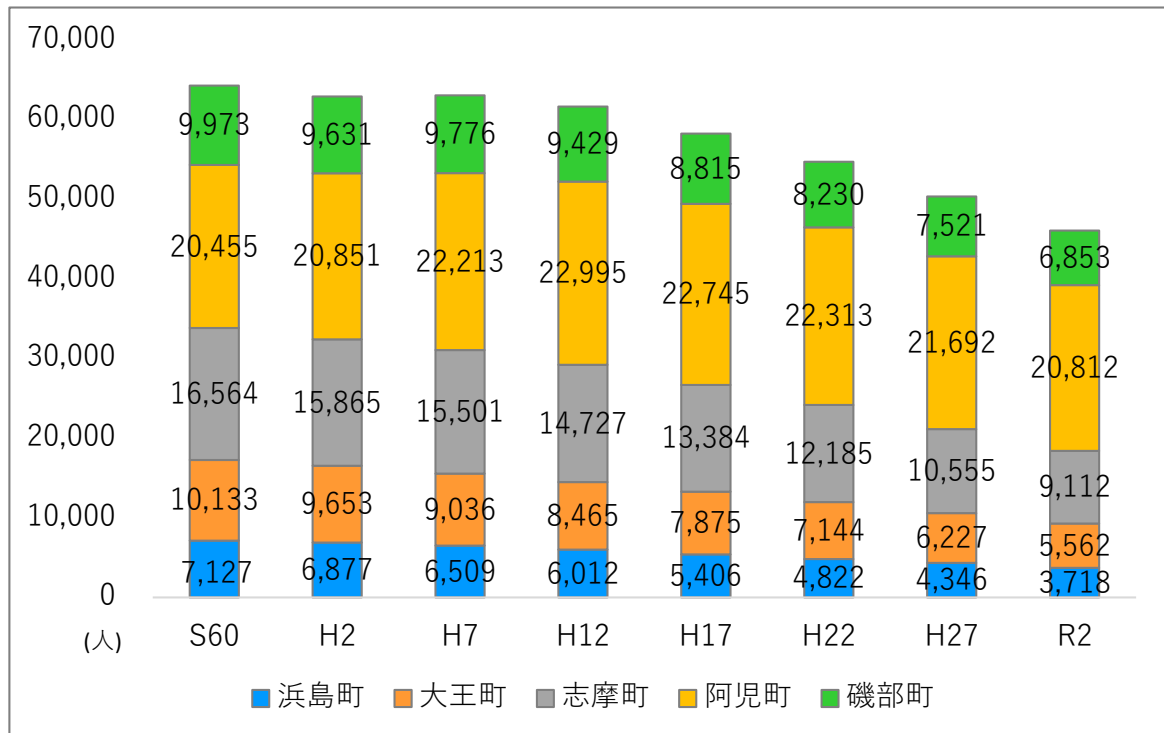


出典:「国勢調査」

## (6)地域(町)別人口の推移

昭和60(1985)年と令和2(2020)年の人口を比較すると、阿児町は増加から減少を経て同規模にとどまっています。他の地域は大きく減少する中で、浜島町、大王町、志摩町は相対的に減少率が大きく、半分程度の規模まで減少しつつあります。

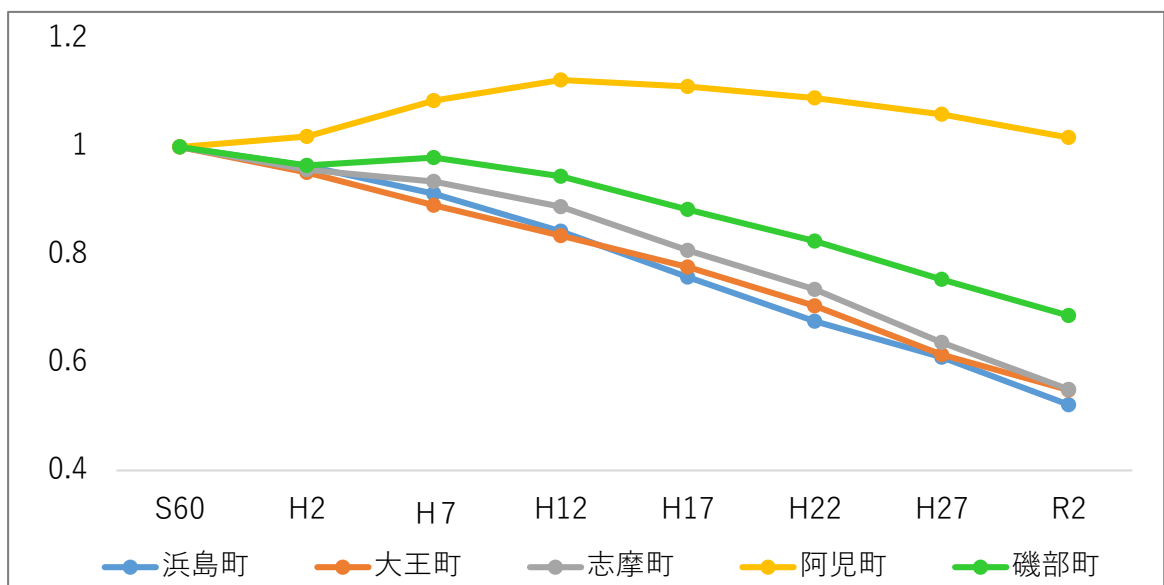
### ①総数の推移



出典:「国勢調査」

### ②地域別人口の比率の推移

※昭和60(1985)年の人口を1とした時の比率

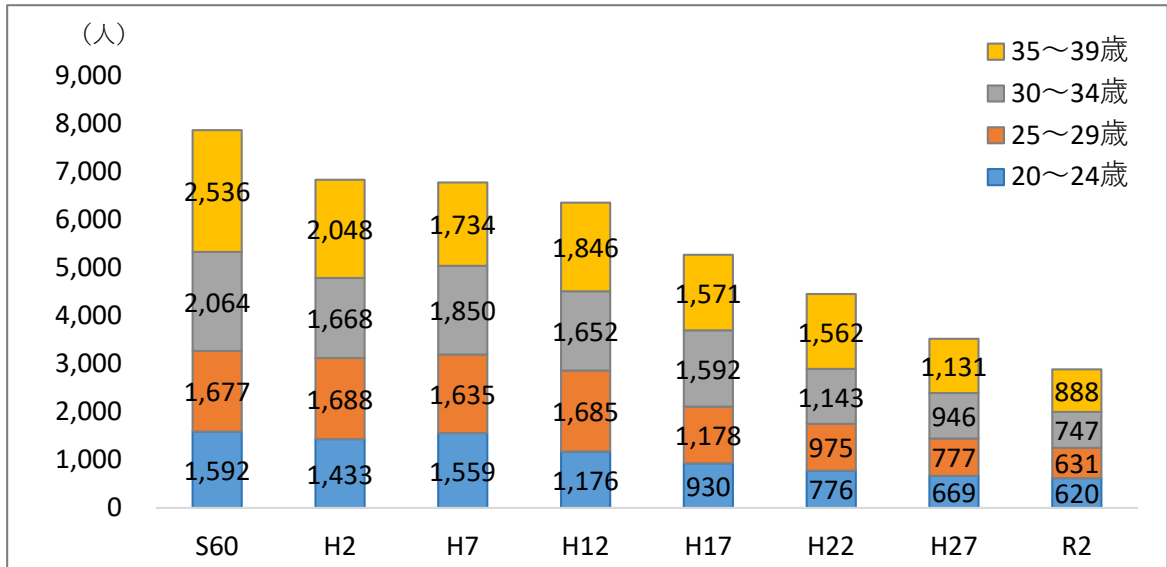


出典:「国勢調査」

## (7)年齢・性別人口(20～30代)の推移

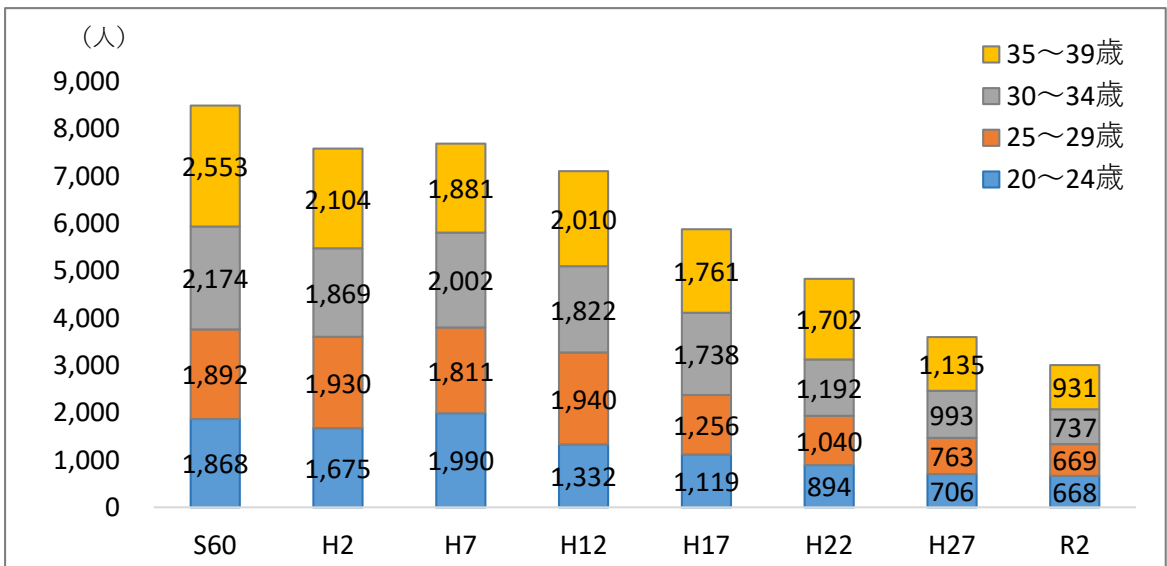
15歳～64歳の生産年齢人口の中でも、特に若い世代の減少が進んでおり、平成17(2005)年時点と比較すると、15年経過した令和2(2020)年は男性・女性ともに約1/2の水準まで減少しています。

### ①男性



出典：「国勢調査」

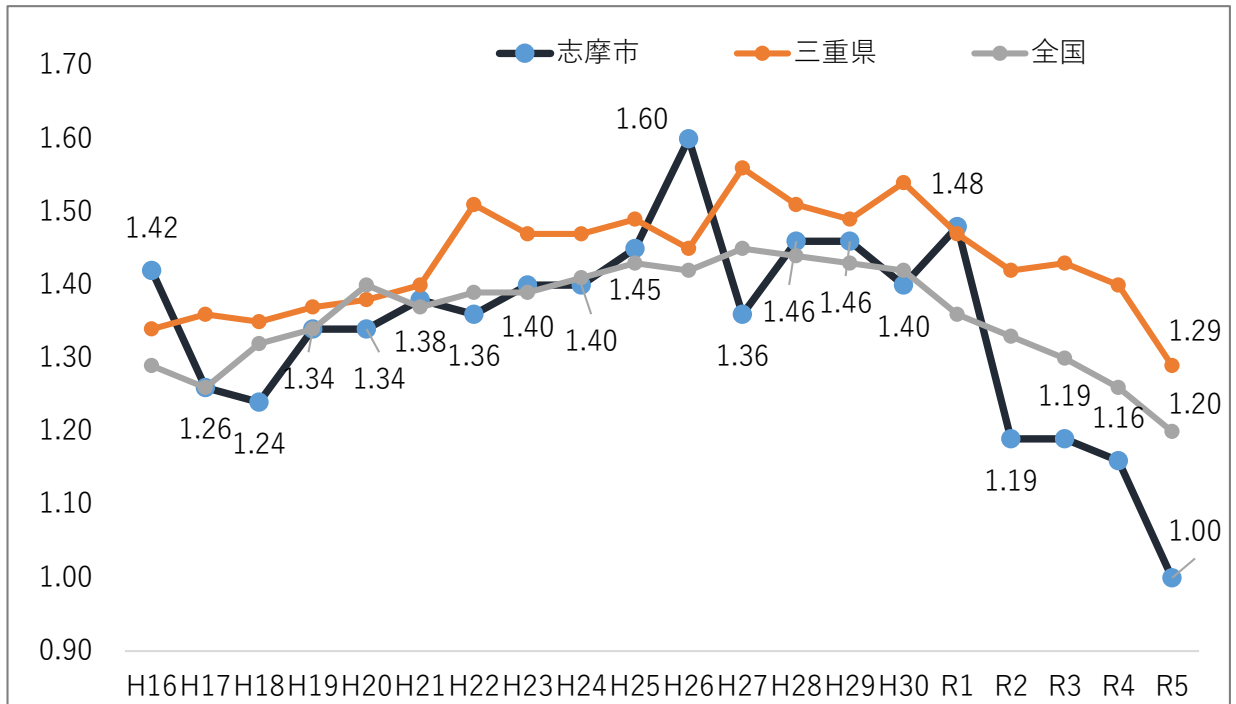
### ②女性



出典：「国勢調査」

## (8) 合計特殊出生率の推移

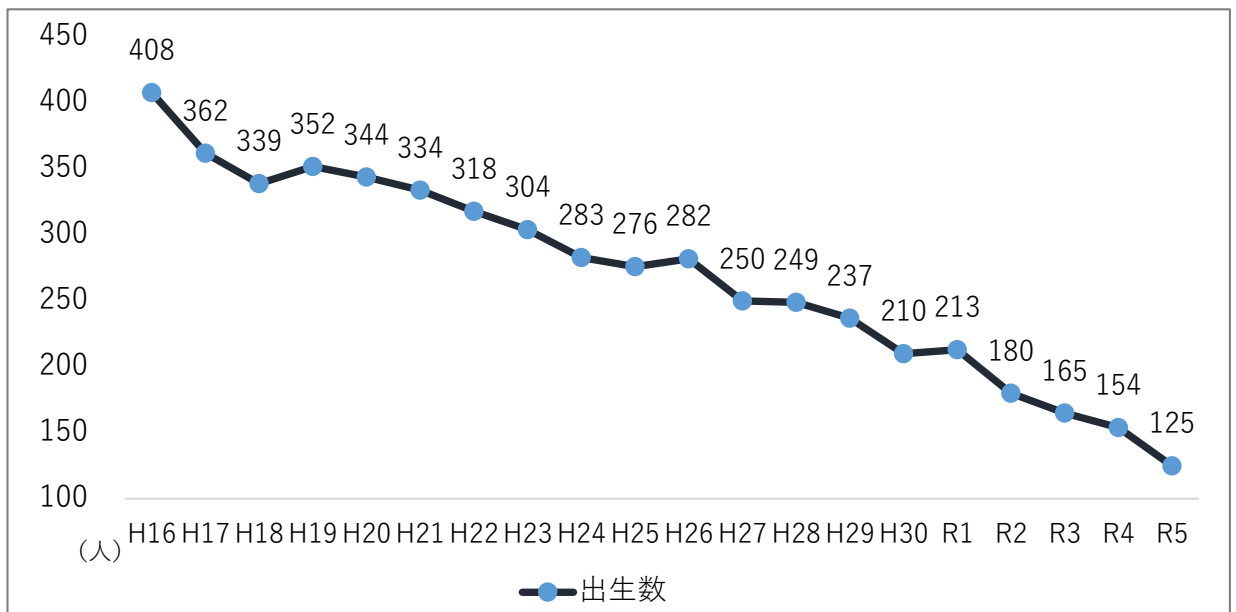
合計特殊出生率は、令和2年のコロナ禍前までは1.4前後で推移していましたが、近年、全国・三重県が減少傾向にある中、志摩市も過去最低の水準まで減少しています。



出典:「人口動態統計」

## (9) 出生数の推移

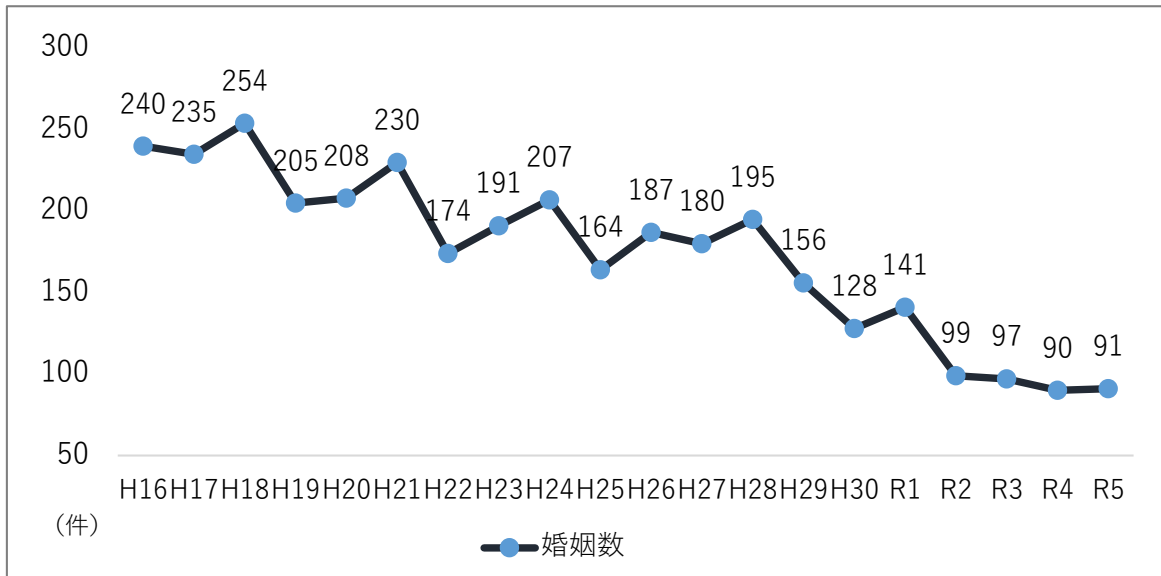
若い世代の減少に伴い、出生数は年々減少する傾向にあり、約20年前の平成17年時点と比較すると、令和2年は約1/2、近年は約1/3に近い水準まで減少しています。



出典:「人口動態統計」

## (10) 婚姻数の推移

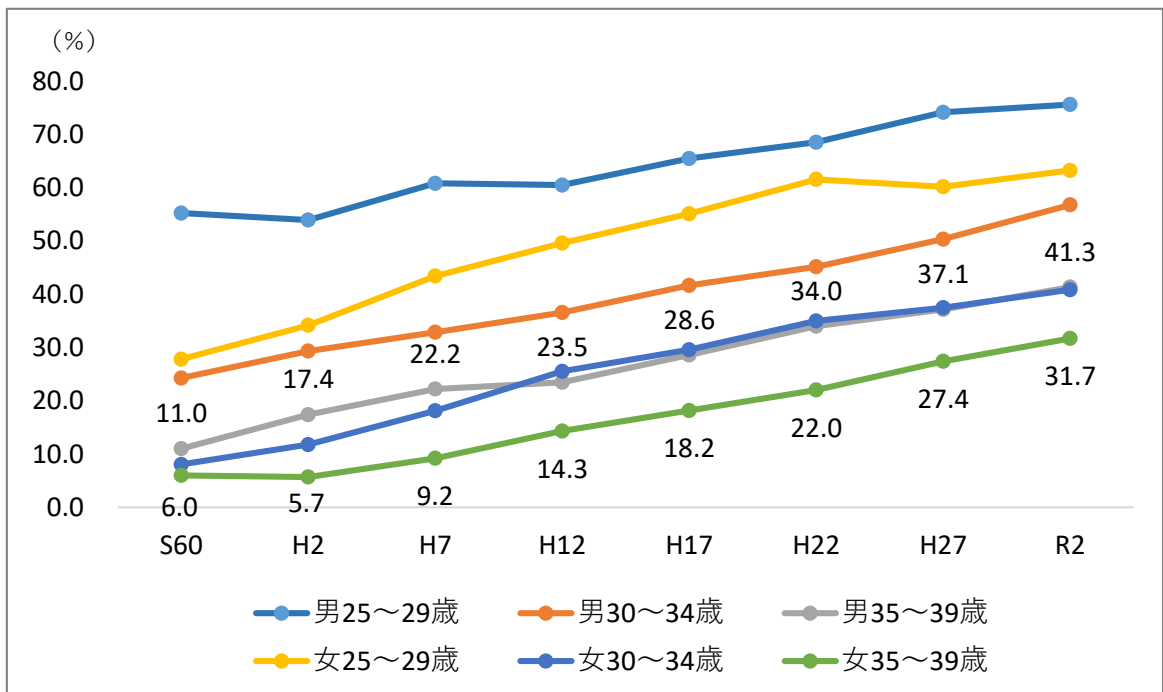
婚姻数は増減を繰り返しながらも、長期的には減少しています。全国的にも減少傾向にある中、近年は90件程度まで減少しています。



出典:「人口動態統計」

## (11) 未婚率の推移

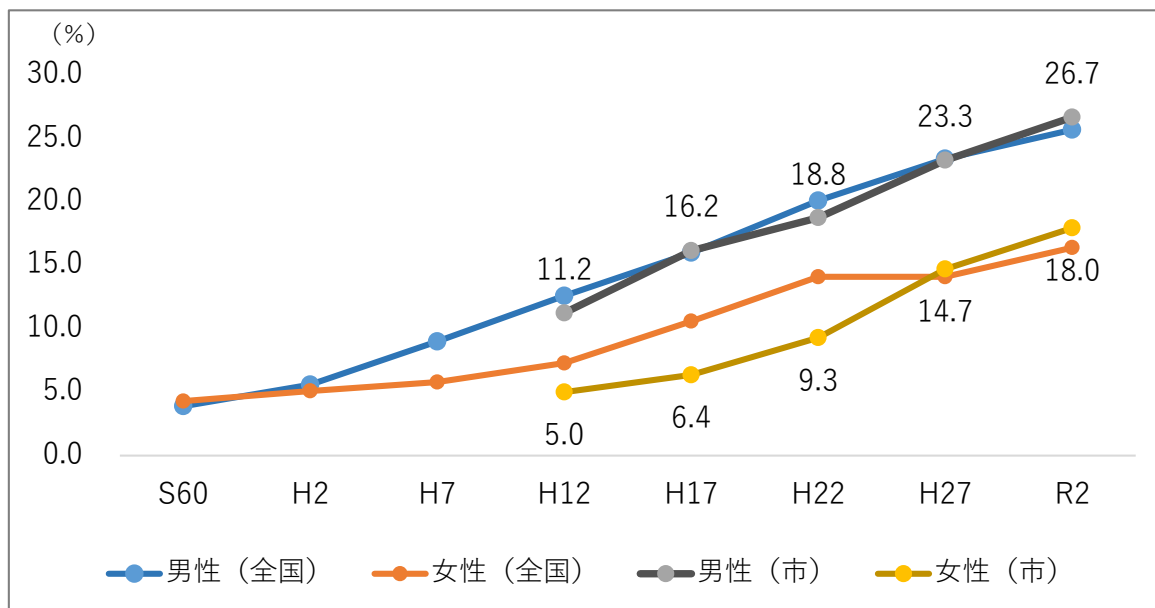
晩婚化・非婚化が進んでおり、令和2年国勢調査において、35～39歳の未婚率は、男性が4割、女性が3割を超える状況となっています。



出典:「国勢調査」

## (12)50歳時未婚割合の推移

令和2年国勢調査の50歳時の未婚割合は、全国的な傾向と同様、男性の26.7%、女性の18.0%が未婚という結果になっています。「(11)未婚率の推移」の平成17年の35～39歳の未婚率とほぼ同じ割合となっています。

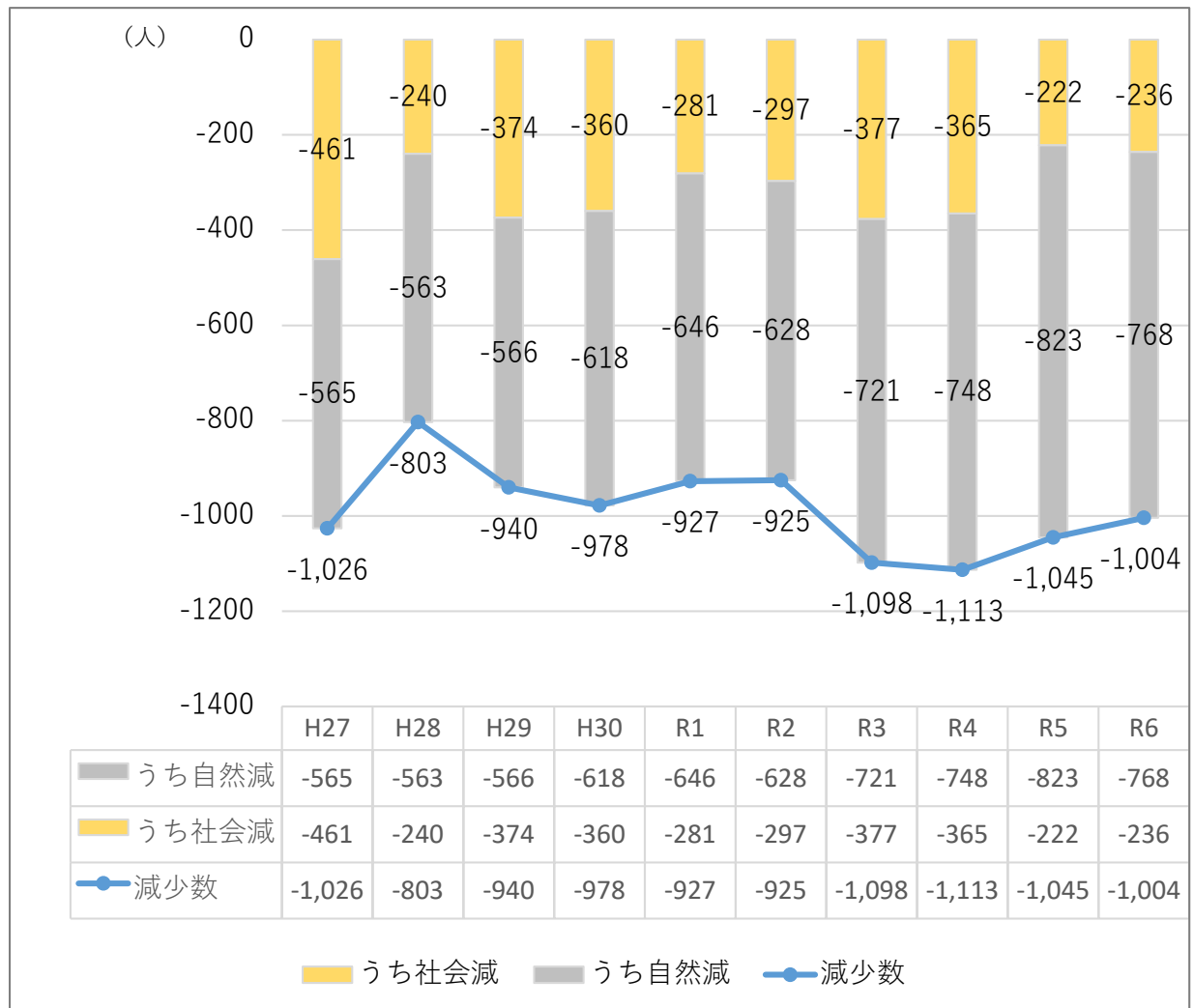


出典:「国勢調査」

※ 50歳時の未婚割合 ……45～49歳の未婚率と50～54歳の未婚率の平均。50歳時の未婚割合は生涯未婚率とも呼ばれる。

## (13)人口動態(自然増減(出生－死亡)と社会増減(転入－転出))

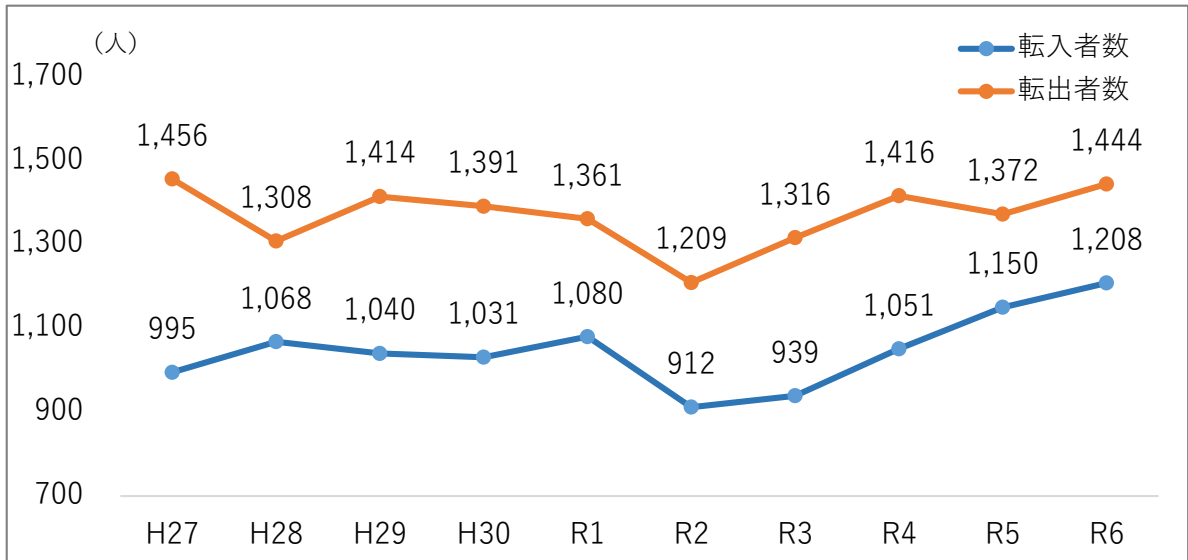
本市においては、自然増減と社会増減の両方の観点から減少が生じており、年間1,000人程度減少しています。自然減については、高齢化による死亡者数の増加が影響し、増加傾向にあります。一方、社会減は、若者を中心とした転出超過が毎年300人～400人程度続いていましたが、直近の令和5(2023)年及び令和6(2024)年は230人程度となっています。



出典:「三重県月別人口調査」

## (14) 転入・転出者の推移

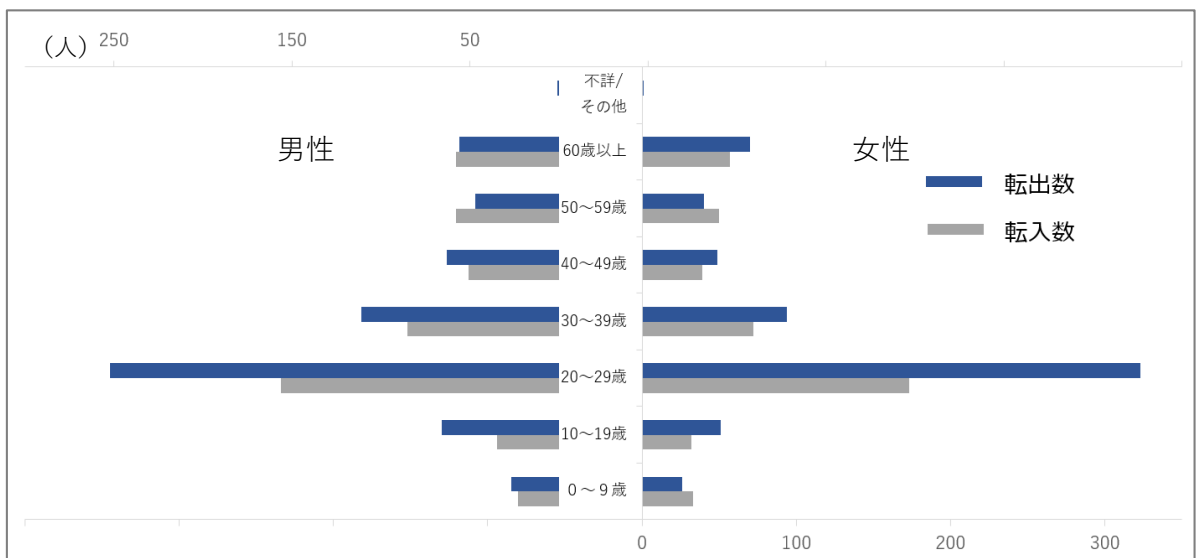
転出の動きはコロナ禍前と同様の水準に近づいています。一方、転入の動きは、令和2年以降、増加傾向にあり、令和6年は過去10年で最多となっています。



出典:「三重県月別人口調査」

## (15) 転入・転出者の年齢別構成(令和6年)

若い世代の転出超過が大きくなっています。中でも、20代女性の転出が一番多く、次いで20代男性が多くなっています。一方、50代、60代男性、10歳未満女性は、わずかながらも転入超過となっています。

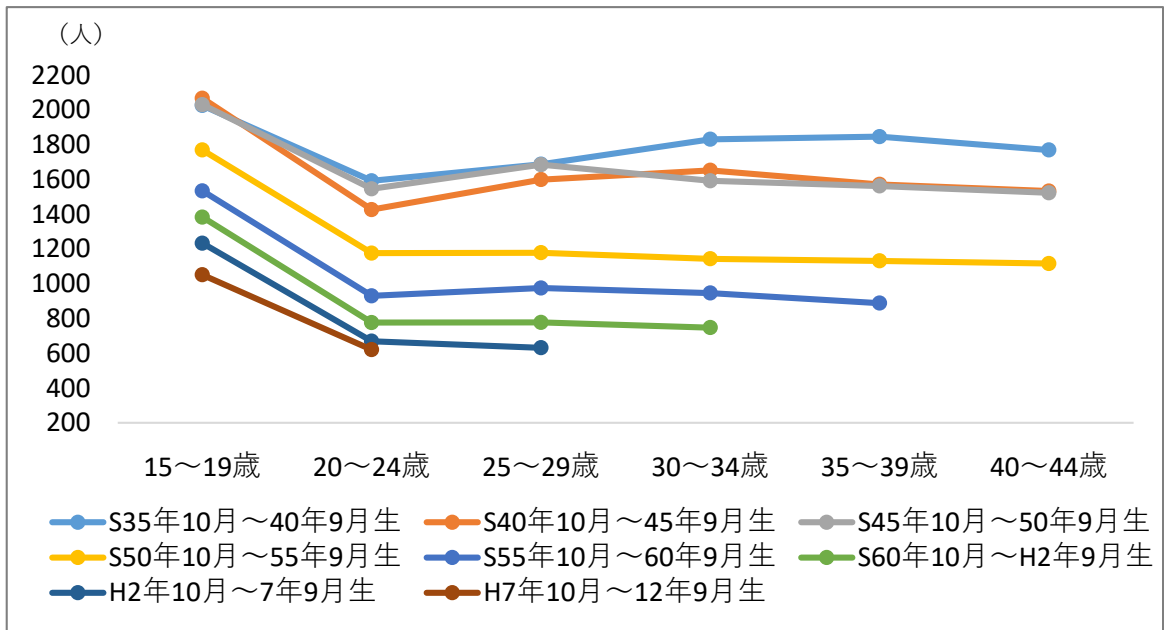


出典:「住民基本台帳人口移動報告」

## (16)出生時期別 人口の推移

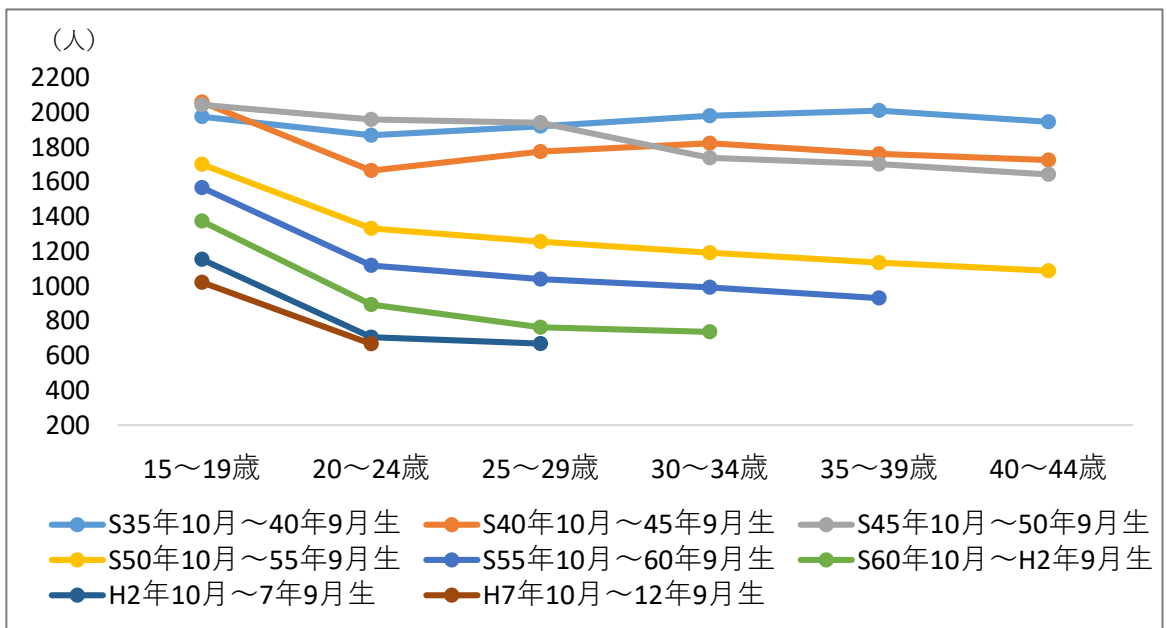
5年スパンの出生時期別で見ると、昭和50(1975)年9月生まれ以前の世代は、20～24歳時に減少するものの、25～29歳時には一定程度の増加が生じていました。一方、昭和50年(1975)10月生まれ以降の世代は、25～29歳時に戻りがほとんど生じておらず、近年はむしろ減少する傾向にあります。

## ①男性



出典:「国勢調査」

## ②女性



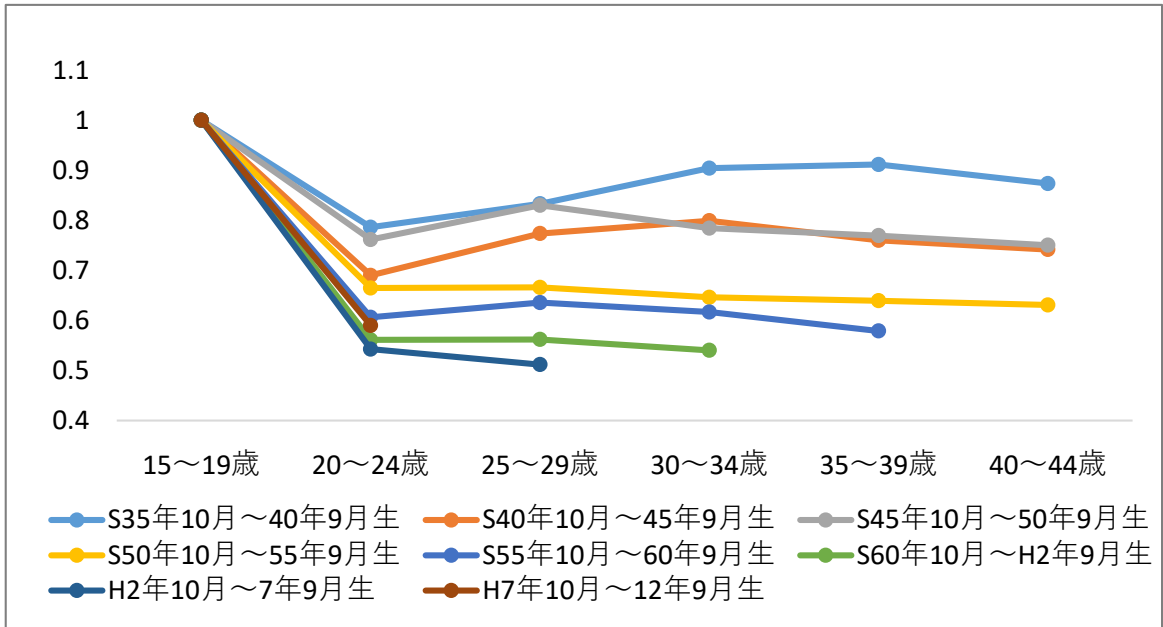
出典:「国勢調査」

## (17)出生時期別 人口の推移

※15～19歳人口を1とした時の比率

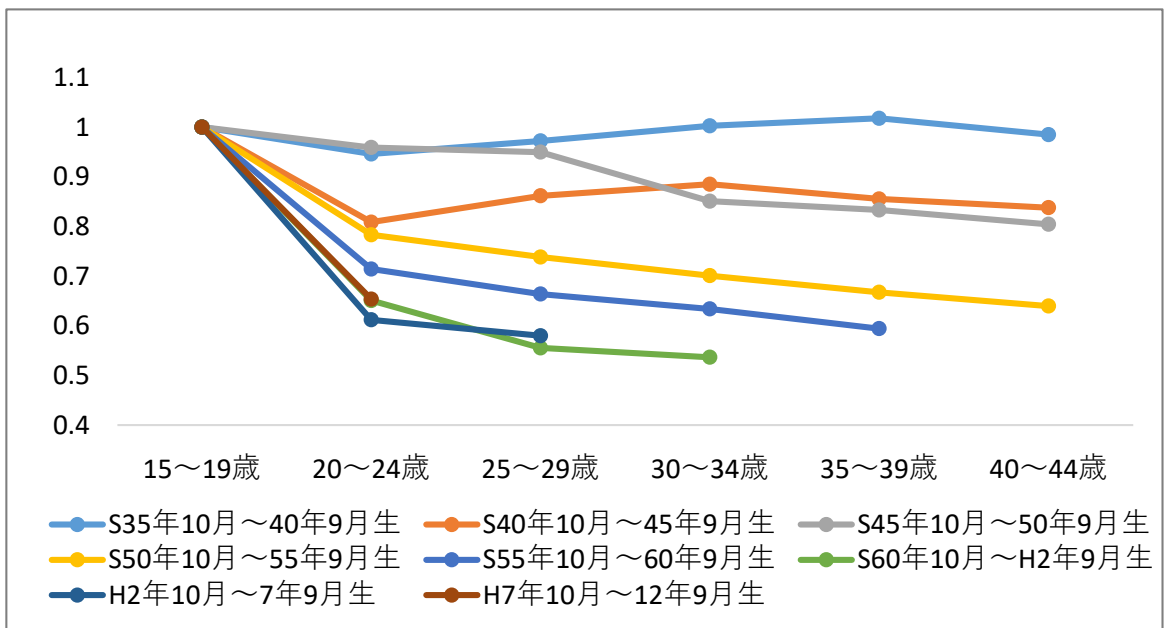
15～19歳人口を基準とした比率は、世代が進むにつれて年々小さくなっています。進学率の上昇もあってか、女性の転出傾向が、年々強まっていることがわかります。

## ①男性



出典:「国勢調査」

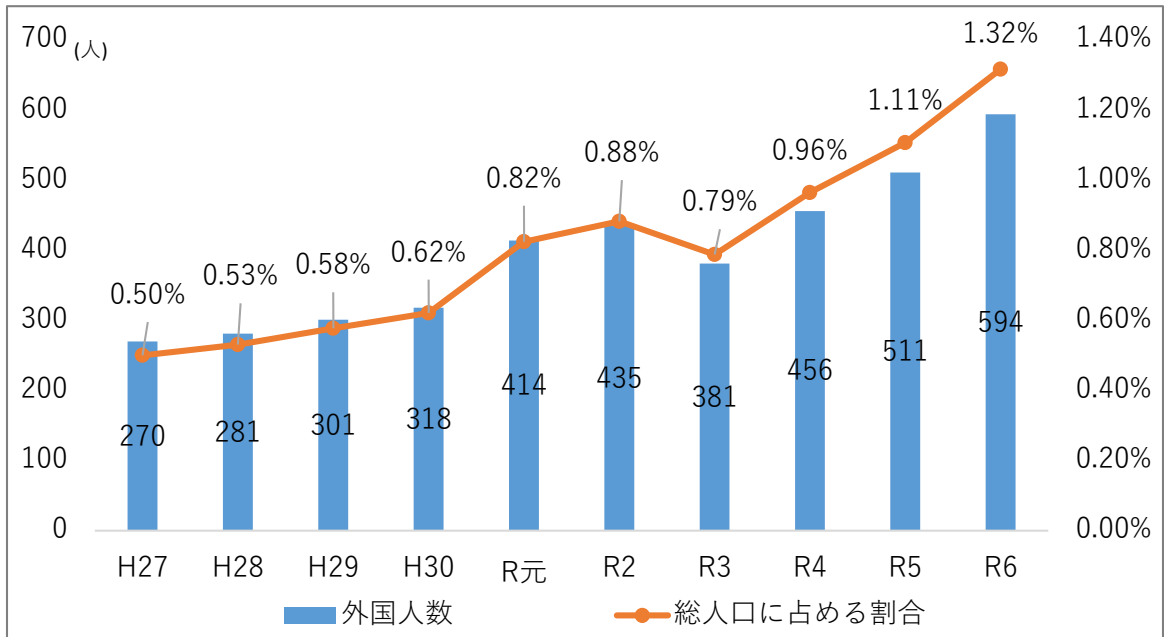
## ②女性



出典:「国勢調査」

### (18)外国人住民数と総人口に占める割合の推移(各年12月末時点人口)

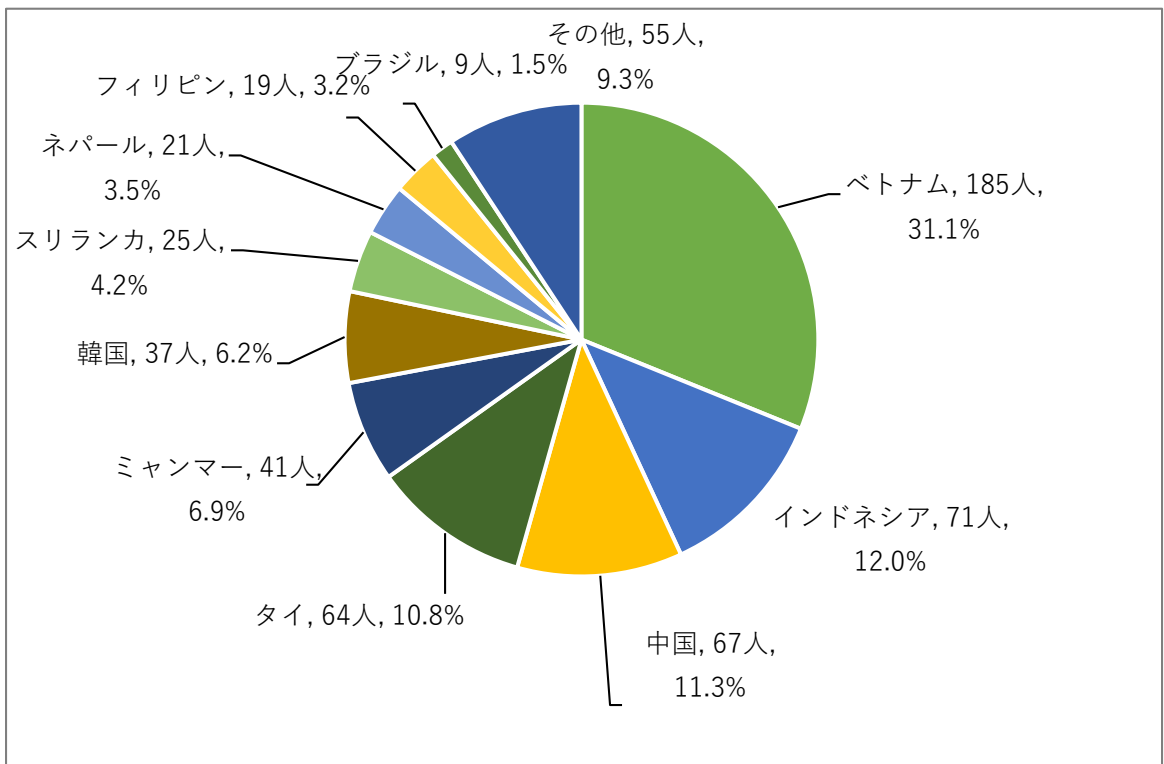
技能実習生等として居住する若い世代が増加しており、市内の外国人人口は、年々増加傾向にあります。



出典：三重県「外国人住民国籍・地域別人口調査」

### (19)市内に居住する外国人の主な国籍(2024(令和6)年12月末)

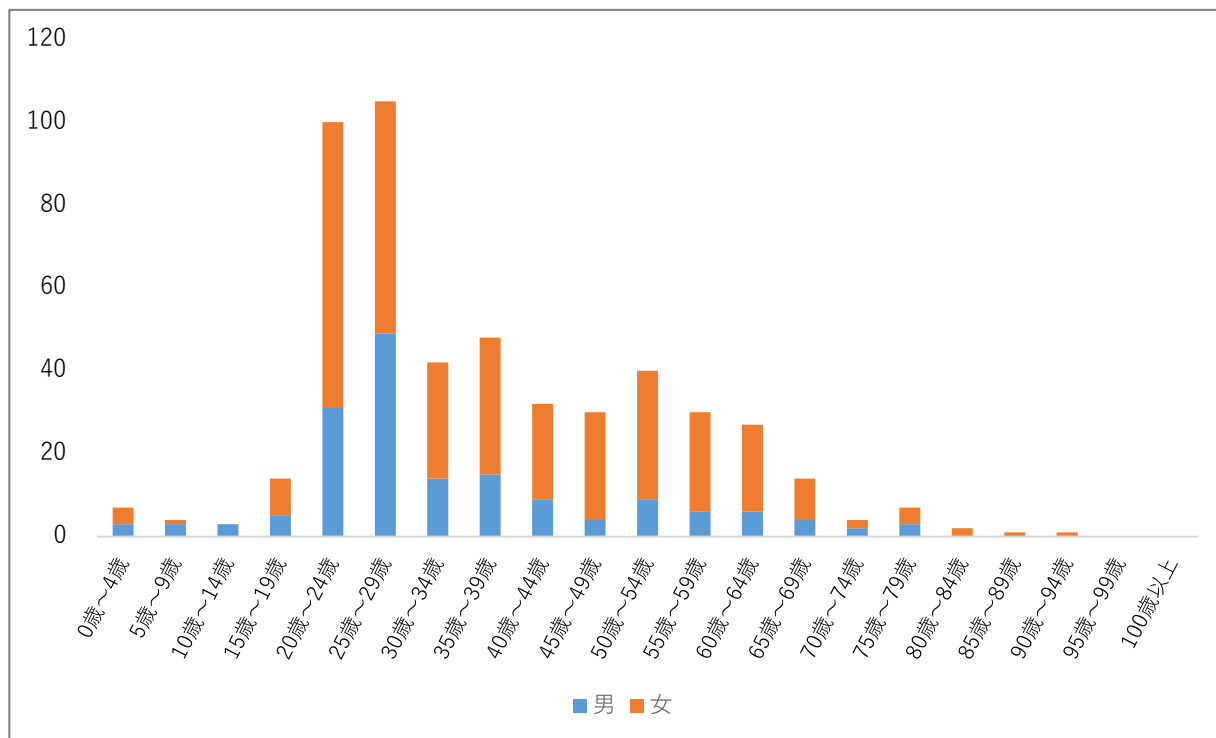
ベトナム、インドネシア、中国の3か国で、外国人市民全体の約5割を占めています。



出典：三重県「外国人住民国籍・地域別人口調査」

## (20)外国人住民の人口構成(令和5年12月末時点)

男性と女性の人口比率は、1:2となっています。また、20代・30代の女性が全体の約35%を占めています。



出典:「住民基本台帳人口年齢階級別人口」

### 3. 将来人口の推計

国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)から令和5年に公表された「日本の将来推計人口」において推計期間が2070年まで延長されたことを踏まえ、本市の「人口の将来展望」についても2070年まで延長して推計を行います。推計にあたっては、最新の「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ及びワークシート(令和6年6月版)」を活用します。

#### ■ 自然増減の仮定

1	合計特殊出生率 2040年1.4 ⇒2050年 1.6⇒2060年1.8 【希望出生率の達成】	合計特殊出生率が2040年に1.4、2050年に1.6、2060年に1.8の水準まで段階的に改善し、維持するものと仮定
2	合計特殊出生率 2040年1.8 ⇒2050年2.1 【市ビジョン(R4.12)の見通し】	合計特殊出生率が2040年に1.8、2050年に2.1(人口置換水準)の水準まで段階的に改善し、維持するものと仮定
3	社人研の人口推計 (令和5年推計)準拠	社人研の人口推計(令和5年推計)に準拠し、2020(令和2)年の全国の子ども女性比(15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比)と市の子ども女性比との比をとり、2025(令和7)年以降も、その比が概ね維持されるものと仮定

#### 推計における合計特殊出生率の設定値

	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2070
1	1.10	1.20	1.30	1.40	1.50	1.60	1.70	1.80	1.80	1.80
2	1.50	1.60	1.70	1.80	1.95	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
3	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24

#### 【参考】 志摩市の合計特殊出生率の推移

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
合計特殊出生率	1.36	1.46	1.46	1.40	1.48	1.19	1.19	1.16	1.00

出典:三重県人口動態統計

## ■ 社会増減の仮定

<b>A</b>	2025年転出超過 年150人 ⇒2030年均衡(転出超過数ゼロ) ⇒2045年に50歳未満の世代が 転入超過 年150人 【市ビジョン(R4.12)の見通し】	2025年までに転出超過が年150人の水準まで減少し、 2030年に均衡達成。段階的に転入が増加し、2040年 以降、50歳未満の世代が年150人の転入超過となるも のと仮定
<b>B</b>	2025年均衡(転出超過数ゼロ) 【参考比較】	2025年までに転出超過が年150人の水準まで減少し、 2030年に均衡達成。その後も均衡状態が続くものと仮 定
<b>C</b>	社人研の人口推計 (令和5年推計)準拠	社人研の人口推計(令和5年推計)に準拠し、2005～ 2010年、2010～2015年、2015～2020年の3期 間に観察された地域別の平均的な人口移動傾向が継続す るものと仮定

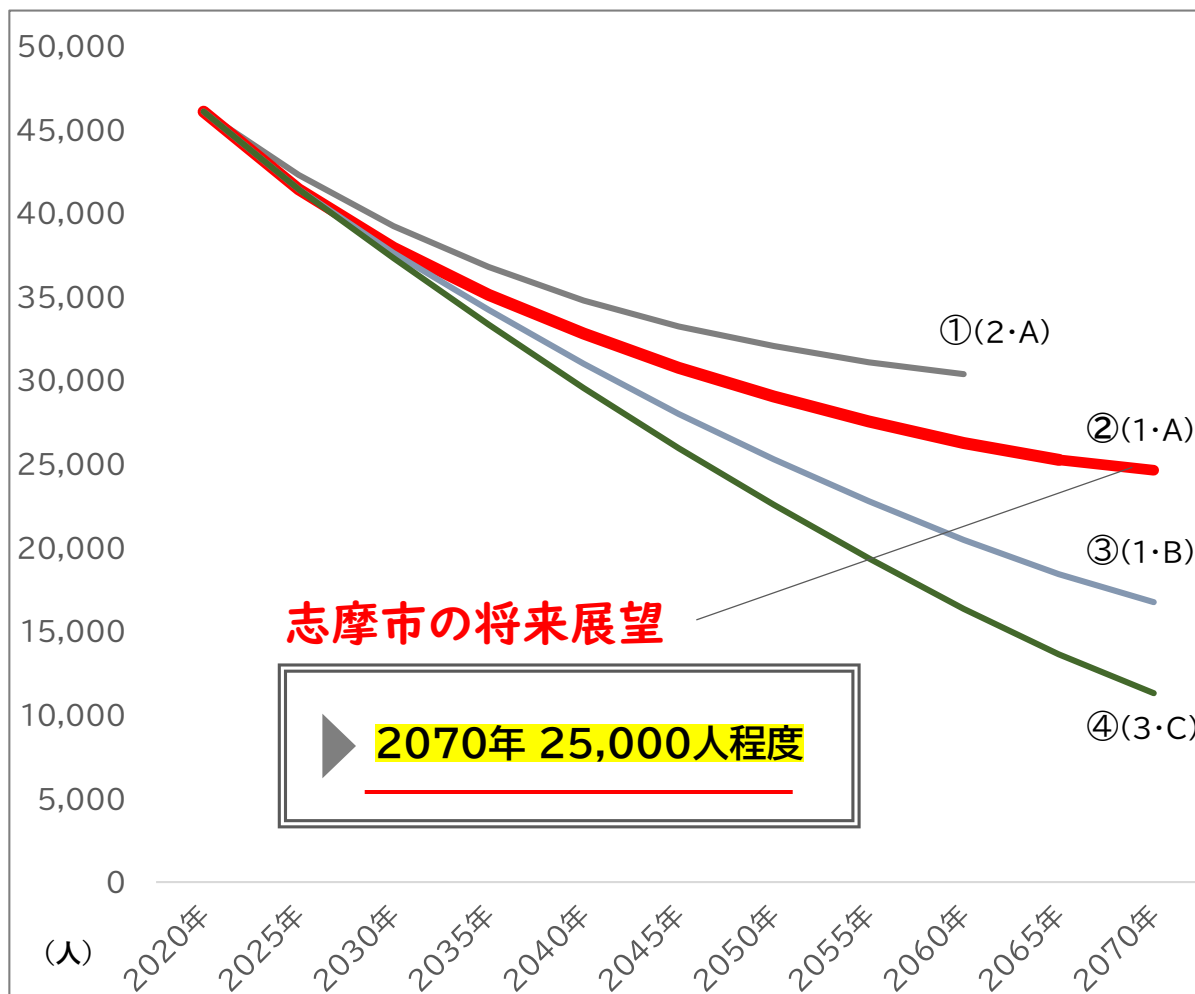
### 推計における社会増減の設定値

	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2070
<b>A</b>	年 150人 転出 超過	均衡	年 100人 転入 超過	年 150人 転入 超過	年 150人 転入 超過	年 150人 転入 超過	年 150人 転入 超過	年 150人 転入 超過	年 150人 転入 超過	年 150人 転入 超過
<b>B</b>	年 150人 転出 超過	均衡	均衡	均衡	均衡	均衡	均衡	均衡	均衡	均衡
<b>C</b>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

### 【参考】 志摩市の社会増減の推移

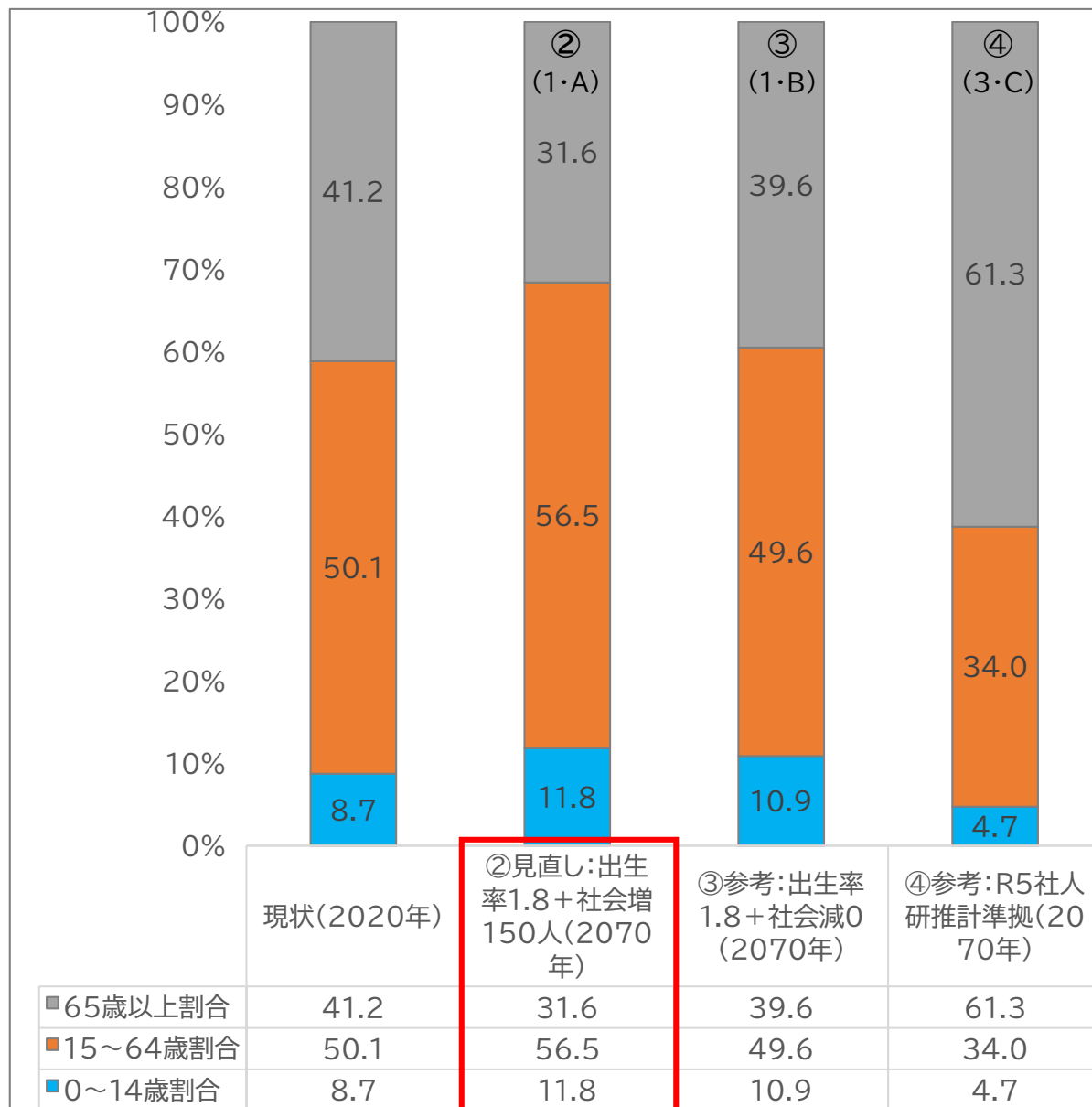
年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
社会 増減	△461	△240	△374	△360	△281	△297	△377	△365	△222	△236

## (1)各推計パターンと「人口の将来展望」



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
①現行： 出生率2.1+ 社会増150 人	46,057	42,269	39,213	36,776	34,762	33,210	32,049	31,073	30,363	—	—
②見直し： 出生率1.8+ 社会増150 人	46,057	41,411	37,916	35,104	32,783	30,741	29,031	27,532	26,242	25,245	<b>24,615</b>
③参考： 出生率1.8+ 社会減0	46,057	41,411	37,608	34,208	30,985	27,984	25,274	22,771	20,454	18,411	16,730
④参考： R5社人研推 計準拠	46,057	41,411	37,301	33,326	29,532	25,932	22,559	19,350	16,327	13,617	11,291

## (2)各推計パターンの年齢3区分別人口割合の比較



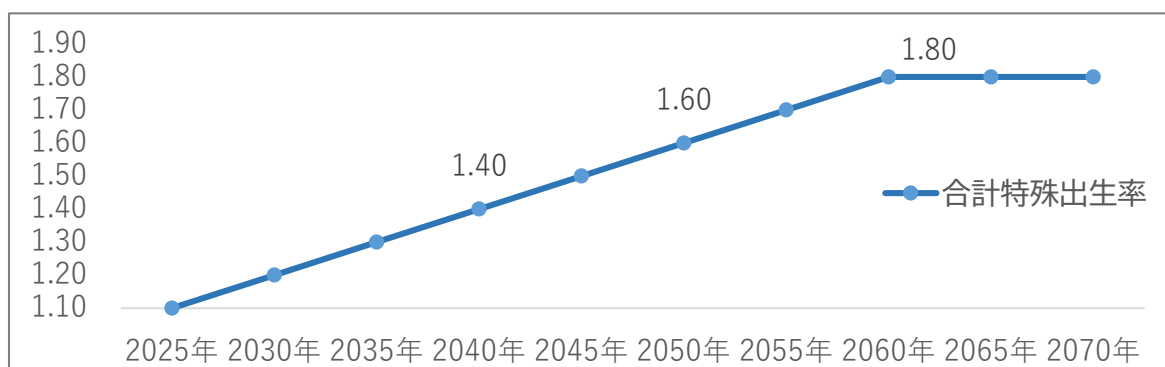
志摩市の  
将来展望

## 4. 見直し後の「人口の将来展望」

「3. 将来人口の推計」の結果を踏まえ、以下のとおり、人口の将来展望を整理します。

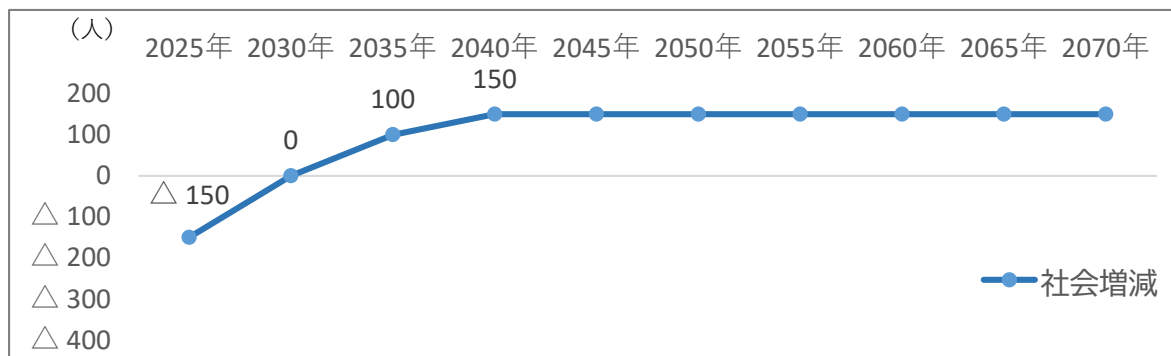
### (1) 自然増減に関する展望

近年の合計特殊出生率の状況を踏まえ、結婚したい、出産したいという人の希望を叶えることで実現する合計特殊出生率の値である「希望出生率1.8」を新たに目標として掲げ、2030年に1.2、2040年に1.4まで改善させるとともに、2060年までに段階的に合計特殊出生率を改善させることとします。



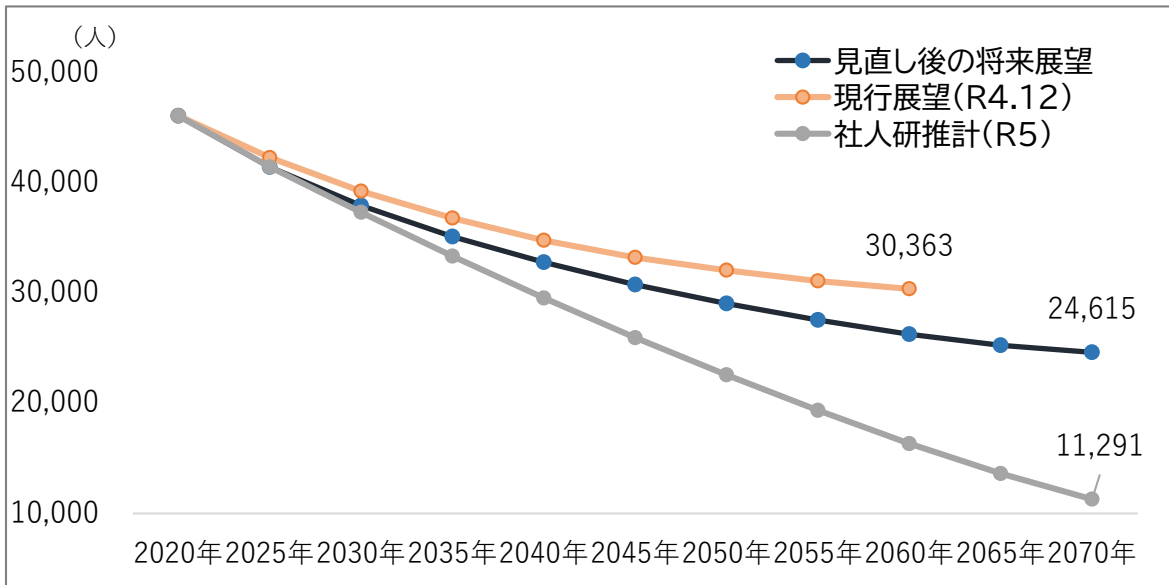
### (2) 社会増減に関する展望

近年の社会減(転出超過)の改善状況を踏まえ、引き続き、若者・移住者に選ばれる暮らしやすい地域づくりを進め、2030年までに転出入の均衡をめざすとともに、さらに転入を増やし、2040年以降は50歳未満の世代の転入超過を年150人の水準まで増加させることとします。

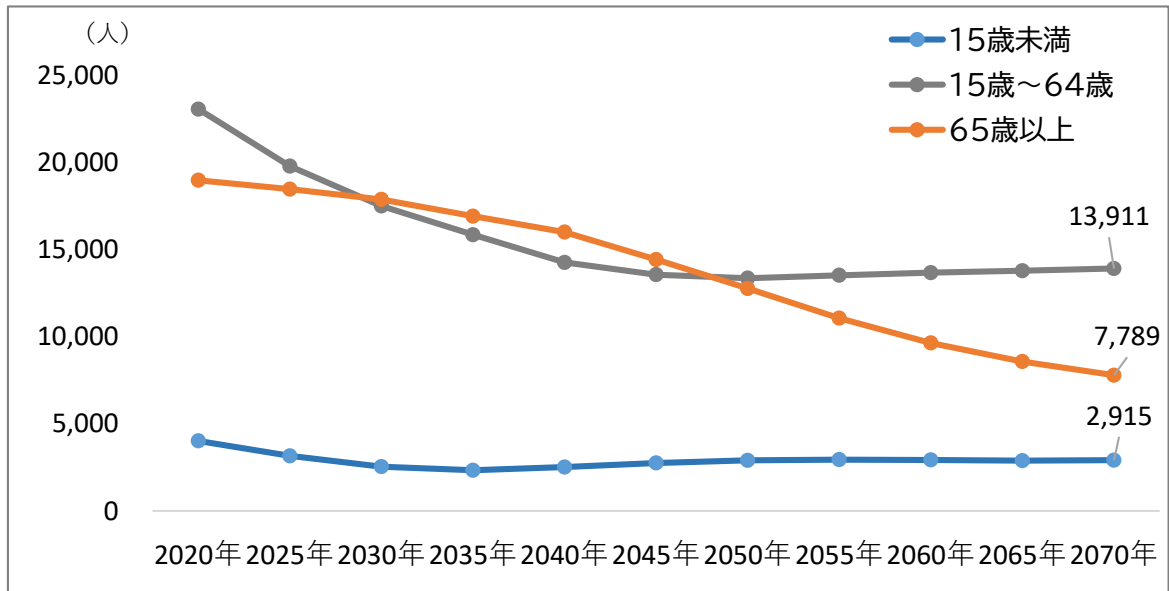


### (3) 将来人口に関する展望

(1)と(2)を実現することで、2070年に25,000人程度の人口を確保します。



(参考) 年齢3区分別人口



## (4)まとめ

今回の人口の将来展望の見直しにおいて、(1)自然増減に関する展望については、現実的な観点から、現行ビジョンに比べ合計特殊出生率の上昇スピードを緩め、2060年に希望出生率1.8を達成することを目標として定めることとしました。まずは、国や県の少子化対策の推進も含め、出会い・結婚・妊娠・出産・子育ての希望を叶える取組を進めることで、人々の希望が叶う社会の実現を描いています。

また、(2)社会増減に関する展望については、自然減対策の観点から若い世代の確保が重要であることから、まずは2030年までに転出入均衡を実現するとともに、さらに転入を増やし、2040年以降は、50歳未満の世代の転入超過を年150人の水準まで増加させていくこととしました。毎年、進学や就職等を機に多くの若い世代が志摩市から転出していますが、逆に言えば、戻ってきてもらう可能性のある出身者が市外に多くいるということであり、その素地を考えればこの目標は達成可能な範囲であると見込んでいます。転出抑制のための定住施策はもちろんのこと、これまでに市外へ流出した若い世代やその配偶者及び子どもも含めたUターンの推進、移住施策に取り組むことで、若い世代を中心に呼び込んでいきます。そのためには、地元へ戻ってきたい、移住したいという魅力的な環境をつくることが重要であることから、雇用の場の確保をはじめ、子育て・教育環境の充実も含めた総合的な社会減対策に取り組んでいきます。

このような展望を実現することで、(3)将来人口に関する展望については、「2070年に25,000人程度」を目標に掲げます。人口規模の確保だけでなく、将来にわたって持続可能となるよう、世代間の人口バランスのとれたまちの姿を目指します。